
第2編

基本構想

- 第1 町の将来像（10年後に目指すべき町の姿）
- 第2 基本方針

■町の将来像（10年後に目指すべき町の姿）（案）

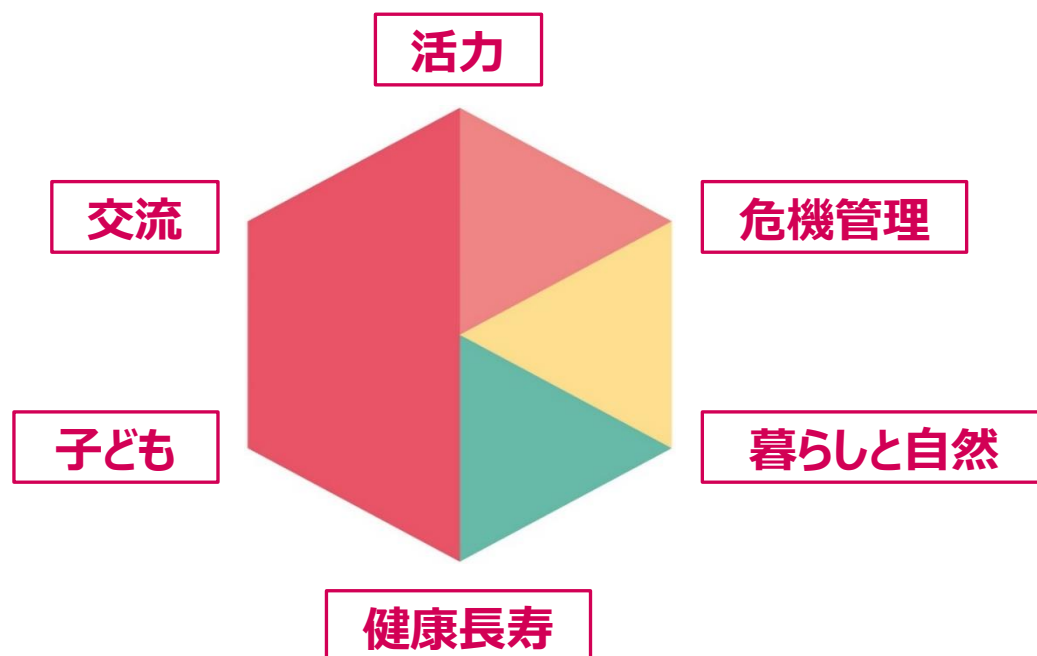
「献上桃の郷 こおり 躍動プラン」では、前総合計画で掲げた将来像を発展的に継承し、温かみのある町民みんなが、自然や歴史、文化、産業、教育など、本町の特色ある恵まれた地域資源を最大限に生かしながら、活力や元気あふれる“輝かしい”未来に向かって魅力的なまちづくりを推進する姿を、「町の将来像」として次のように掲げます。

「幸せを実感できる 元気なまち こおり」

- 「幸せを実感できる」は、町民みんなが、自然・歴史・文化など、先人たちが築き大切に継承してきた恵まれた地域資源に誇りと愛着を持ち、安全・安心な生活環境で育ち、学び、心身豊かに暮らしている様子を表します。
- 「元気なまち」は、町民みんなが、夢や希望、生きがいを持ち、元気に活躍している様子を表します。

この計画は、6つの方針に基づき各種施策を展開し、将来像の実現を目指す計画であることから、「6恵（K）6幸（K）こおり 未来プラン」を掲げ、計画の実現に取り組んでいきます。

6恵6幸こおり 未来プラン



町は、平成28年度の「献上桃の郷」商標登録を機に、町の宝である自然、歴史、文化を「桑折ブランド」として確立するため、上記ロゴマークを制作しました。

このマークは、「町民のあたたかさ」や「桃」「半田山」などをイメージした色や、「人と人」「過去・未来」とのつながりをイメージし、雪の結晶の形でもある「六角形」でデザインされています。

「六角形」は、バランス・調和の象徴で、「亀甲模様」など、古来より「長寿吉兆」の象徴として縁起の良い形とされており、「6恵6幸」には、町民みんなの「調和・安定」や「幸せ」、「過去と未来や人とのつながり」への願いが込められています。

■基本方針（案）

新総合計画では、町の将来像実現に向けて6つの方針を設定し、あらゆる行政分野において、「南東北三県の結節点に位置する地理的優位性」「歴史と文化の薫りの高さ」「自然の恵みの豊かさ」「温かみのある人柄」など、本町にしかない優れた地域資源を最大限生かすとともに、「こおりならでは」の優位性や、小さい町ならではのスモールメリットを生かした十分な横連携を図り、好循環の連鎖を生み出すことで、「こおりならでは」のまちづくりを総合的に進めていきます。

1. 活力と賑わいに満ちたまちづくり

農業分野では、「献上桃の郷」の産地継承に向けて、新規就農者や後継者育成支援事業や、農業振興活動拠点施設を活用した農業振興、有害鳥獣対策による農作物被害の軽減を図るとともに、町農産物のブランド化や6次化商品開発、町のイメージアップにより農家所得向上を図ります。

商工業分野では、伊達桑折IC周辺の完成などによる交通の利便性や地の利を生かしながら、企業誘致により新たな雇用を創出し若者の町外流出を食い止めるとともに、サテライトオフィスの整備等も念頭に、地場産業や商業工業の振興による町民所得の向上と経済活性化を図ります。また、若者定住促進事業や新婚世帯家賃支援事業などによる移住・定住の促進に継続して取り組むとともに、地域おこし協力隊と連携し、移住定住の促進に取り組むとともに駅前公有地（福島蚕糸跡地）の利活用や新庁舎周辺を生かした賑わい創出など、町の特色を生かした活力と賑わいに満ちたまちづくりを進めます。

2. 暮らしやすく豊かさを実感できるまちづくり

恵まれた自然を守り次世代に引き継いでいけるよう自然環境の保護に取り組みながら、生活環境道路や排水路の整備及び適正管理、水環境の適正な保全、空家・空地の利活用、環境に配慮した自然エネルギーの活用等を一層推進しながら、居住環境の整備を進めるとともに、JRや高速道路などを活用し、地域公共交通環境の充実を図りながら、みんなが便利で快適で豊かに暮らせるまちをつくりまします。

3. 健康長寿で元気なまちづくり

みんなが体も心も健康で生き生きと暮らせるよう、メタボ運動教室等の充実による健康づくり事業の推進、生涯スポーツと健康づくりの連携による介護予防、老人クラブや各地のサロン活動の支援による参加促進など高齢者の交流の場や居場所づくりを進めます。また、地域公共交通の充実（お出かけパス事業）により、高齢者の利便性向上を図るとともに、高齢者社会参加型ポイント制度の推進による社会参加活動への参加促進、さらには、芸術鑑賞会や講演会の開催等文化水準の向上を図るなど、年齢や性別、生涯の有無を問わず、誰もが居場所や役割を持ち、生きがいを持って暮らせるまちづくりを推進します。

4. 交流で絆を育むまちづくり

コロナ禍を契機に、テレワークやワーケーションなどリモートワークの急速な普及により働き方改革等が進み、密を避けられる地方への関心が高まっていることから、旧伊達郡役所・史跡桑折西山城跡などの歴史的資源や阿武隈川周辺エリアた半田山など恵まれた自然資源を活用した町の特性や魅力発信の充実、レジャーこおりやピーチウイングを活用し

■基本方針（案）

た町の活力や元気発信の充実による知名度向上による交流人口の拡大など、観光振興を推進します。

また、地域に息づいてきた産業・自然・歴史・文化・気候・交通体系などの貴重な資源を最大限に活かすとともに、地域おこし協力隊を採用しながら、町の取り組みに共感し、多様な関りを持つ「関係人口」の創出を図り、移住定住の推進を図ります。さらに、桑折ファンと共に桑折の良さ・魅力をさらに一層高めることにより、町民の地域への愛着と誇り（桑折プライド）の醸成を図り、さらに交流を促進するなど、地域資源を最大限に活かした「桑折ならではの」の施策に取り組むとともに、町の魅力や元気発信による知名度向上により、様々な人や事業者との交流の輪を広げるまちをつくりまします。

5. 子どもを大切にすまちづくり

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援のさらなる充実を図る「**桑折版ネウボラ※**」を推進しながら、「子育てするなら桑折町」をPRしてまいります。また、これまで取組んできた保育所、学童保育における待機児童ゼロの継続、学力向上対策の推進や平和学習はもとより、英語教育や心の教育の充実、コロナ禍を踏まえた学校教育環境整備（GIGAスクール構想）※など、保育・教育の質の向上を図るとともに、制服支給事業や町独自の奨学金制度による就学支援の充実など、経済的支援により子育て世代へ負担軽減も図りながら、みんなで子育て・教育に携わり、人間としての基本を身につけ、強みを発揮してたくましく未来を切り拓いていく「桑折っ子」を育成します。

6. 危機管理に備えた安全・安心のまちづくり

役場庁舎を拠点とした危機管理に備える体制の充実、災害時に最前線に立ち生命や財産を守る消防団員の活動環境の整備、湛水防除対策の強化など、自然災害に備える体制の強化はもとより、コロナ禍の経験を踏まえた防疫対策の強化にも万全を期してまいります。また、自助・共助・公助の考えのもと、**町内会や住民自治協議会等との連携を図りながら**みんなの助け合いにより地域防災力強化や防犯・交通安全対策の充実を図りながら、みんなが安全安心に暮らせるまちづくりを進めます。

計画の推進に向けて ～町民との共創と効率的な行財政運営～

人口減少・超少子高齢化が進む中にあるのは、これまでの「ものづくり（ハード事業）」から「ひとづくり（ソフト事業）」への転換が求められます。

財政運営については、各種要因による収収減等を念頭に、指定管理者制度等による民間活力の積極的な活用、公共施設の相互利用など近隣市町村との広域連携の推進を図りながら「フルセットの行政」からの脱却を目指し、限られた財源を有効に活用しながら、健全で持続可能な財政運営に取り組んでいきます。

行政運営については、行政課題が複雑化・高度化している中であっても弾力的で柔軟な展開が図れるよう、職員育成を進めるとともに、組織機構改革を進めながら、各課を横断した連携体制の強化を図ります。また、新役場庁舎の優れた機能の有効活用や、AI、IOT、RPAなど新たな技術を導入した「行政のデジタル化」を推進しながら、効率的な事務執行を進めます。

町が目指す将来像や持続可能なまちづくりに向けた各種施策は、SDGsの理念や目標達成に通じるものであることから、町の施策とSDGsの17のゴール（目標）との関連性を明確に示すとともに、世界基準に照らした視点を意識し、SDGsを原動力とした地

■基本方針（案）

方創生を推進していきます。

なお、施策の推進にあたっては、町民・議会はもとより、各種団体、企業、大学、地域が連携し、新たなまちの魅力や地域の価値を共に創りあげていくことが重要であることから、時期を捉えた広報広聴や、町内会、住民自治協議会など自主的に活動する団体への支援を図るとともに、モニター制度等により町民の生の声をお聞きし、背策に反映させるなど、町民参画の共創のまちづくりを推進し、「町民に頼りにされ、信頼され、気軽に立ち寄れる役場づくり」を推進します。